

比叡山・京都北山～奈良大峰山脈・青根ヶ峰へ



(京都貴船神社の紅葉)

日 程 2020 年 11 月 24 日 (火) ～26 日 (木)

参 加 石川誠 佳子

今回の山旅は、かねがね京都・北山の山に登ってみたいという思いから検討していたが個人で行くにはコロナ感染が沈静化していない状況と、交通の利便性を考慮してツーリスト会社の山歩きコースに参加した。

天候は、3 日間共に晴れて京都・奈良の前衛の山々の概要を把握することが出来た。そして京都・奈良という土地柄、日本の歴史と仏教の教えの奥深さ、得度してからの修業の厳しさを垣間見ることの出来た有意義な山旅でもあった。

行 程

11/24 日(火)晴

横須賀-品川-新幹線三河安城-バス-比叡山ハイク 13:30-大比叡(848m) 13:40-14:10

延暦寺・根本中堂 14:40-15:10 釈迦堂-16:30 横川中堂 17:00-18:30 京都(泊)

横須賀から新幹線・バスを乗り継ぎ比叡山バスターミナルへ。ここから 10 分程歩いて大比叡頂

上(848m)に着く。ここから40分程山道を歩き、比叡山延暦寺・根本中堂に着く。60年程前に修学旅行で来たことが思い起こされる。

根本中堂からは阿弥陀堂、山王院、浄土院、釈迦堂に進む。道は千日回峰行で歩く杉林の中を進み、見通しの良い稜線からは眼下の琵琶湖を通して9月に登った伊吹山、そしてその奥に白雪を纏った白山を見ることができた。ここからは奥比叡ドライブウエーに添って千日回峰行で使われる道を辿る。釈迦ヶ岳を右に折れて山道を20分程辿ると横川中堂に着いた。到着が16:00を過ぎており、寺院内の拝観は出来なかったが、静寂な林の中に建つ寺院であった。ここからバスで山道を進み1時間ほどで京都市内の宿に着く。



「浄土院での過酷な修行」

比叡山の中で数多くある寺院の中で浄土院の修業の厳しさには驚愕した。

この浄土院の中に、「十二年籠山行」という12年の間ずっとここにもって修行をされているお坊さん一名がおられるとの事です。その方を「侍真僧(じしんそう)」と呼んでいます。

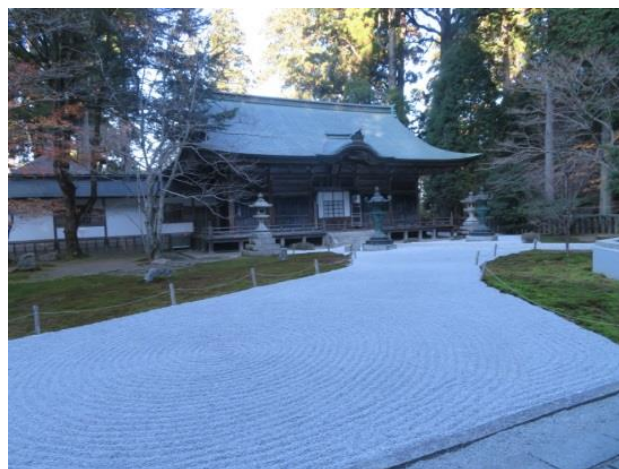
12年の間、一日たりとも休むことなく、この浄土院からほとんど出ることもなく修業を続けられます。最澄上人を祀るお寺ですが、最澄上人はまだ生きておられると信じられています。

その最澄の御霊が、毎日御廟所から拝殿に通われるとのことから、そのお世話をする方が侍真僧と言う事です。この御廟所の中には、侍真僧しか入れません。

中に入って掃除をしたり、拝殿で食事を供えたりします。特に掃除はとても厳しく、木の葉一枚が落ちただけですぐに拾わないといけなそうです。とても地味ながら、



これを毎日12年間続けなければならないのですから、非常に過酷な修行とのこと。7年間におよぶ過酷な修行で有名な千日回峰行をされた阿闍梨さんが、この修業はさらに辛く、



(掃き清められた浄土院境内)

一番苦しい修行だと言われているくらいです。実際に病死したり、脱走して行方不明になる方も多数おられ、過去に 117 人が挑戦し 26 人は亡くなられているらしい。中には割腹された方も居られるとのことでした。

修業は 12 年、しかも、後任の侍真が見つからない場合には、見つかるまで続けるといけないとのことで大変な修行だと思いました。

11/25日(水)晴

京都 7:15-8:00 鞍馬寺 8:15-木の根道-魔王殿-11:00 貴船神社本宮-12:00 嵐山 12:30-京都一周トレイル-13:40 松尾山 (276m)-西芳寺(苔寺)-15:30 松尾大社 16:00-17:50 天理(泊)



「由岐神社・一本杉」

ホテルから 1 時間程バスに揺られ、叡山鉄道の鞍馬駅に向かう。途中鴨川の畔を走って行く。川には白鷺や鴨、川鵜など多くの鳥たちが居てのんびりとした京都ならではの風情を感じた。

現在、鞍馬駅は叡山線の終点であるが、去年の台風で被害を受け運休中となっていた。



(鞍馬の駅・大きな天狗の像)

駅前には大きな天狗の像がある。ここから仁王門をとおって由岐神社へと登って行く。

この神社は毎年 10 月 22 日に鞍馬の火祭が行われることで有名でもある。ここから、九十九折りの道を通って金堂に向かう、途中には源義経の供養塔もあつた。鞍馬寺は、770年に創建されたとのことであり、本殿の目前に広がる風景は、洛北の山々が一望できる素晴らしい絶景ポイントとなっている

ここから貴船神社へは杉林の中の整備された木の根道を進む。木の根道とは、杉の根が道一面にはびこり網の目の様になっていて、

この杉林の中に僧正ヶ谷という場所があり、昔、源義経が牛若丸と呼ばれた幼少期に天狗を相手に剣術の稽古をした場所と伝えられている。

その後、奥の院を経由して貴船川の登山口に降り立ち、此处から坂を上って貴船神社をお参りします。

途中の川沿いには京都の奥座敷を感じさせる優雅な趣があり、夏場には川床が張られ、流しそうめんなど京料理がふるまわれるお店が連なっていた。この界限も丁度紅葉が見ごろとなっていて、行燈など朱色の柱が映えていた。行程は、4時間程山道を歩いた。

ここからまた、バスに揺られて、嵐山の方へ移動する。

1 時間程で、嵐山の駐車場に着く、渡月橋のあたりは、旅行客で混んでいた。



{貴船神社への階段}

渡月橋を渡り、渡り終えたすぐのところにある、中之島公園で昼食を摂る。

行動時間がタイトなので、食堂で昼食を摂るという時間もなく、緋毛氈の敷かれたベンチで、嵐山ののんびりとした風情を味わう間もなく、コンビニで買ったおむすびなどを食べて出発となった。



ここから街中を少し進み、細い路地が松尾山への登山口となっていた。

道は、竹藪の中の細い坂道を進み、途中の高台で京都の街並みが見える場所に着く。

松尾山は(276m)頂上を周回する形で、又、元来た道を西芳寺(苔寺)下ってゆく道を辿る。

苔寺は、宮内庁管理下にあり、事前に予約をしないと見学できないということで拝観することはかなわなかった。街中の細い道を鈴蟲寺を経由して松尾大社に着く。

此处には酒造りの博物館が併設されていて、由緒ある酒造りの樽など、神へ捧げる諸々の機材が展示されていた。又、出来たお酒を川伝いに運ぶ木造りの船なども展示されていて、酒造りの歴史を感じさせてくれる場所でもあった。

ここから再びバスに乗って1.5時間ほどで奈良の宿泊地へ向かった。

辺りはすっかり暗くなっていたが、ここは龍谷大学や天理教の本部などがある場所でもあった。



(京都市内を見下ろす)



11/26 日(木)晴

天理 7:00-8:30 吉野山 8:40-中千本-上千本-奥千本-11:50 吉野山青根ヶ峰(858m) 13:55-蜻蛉ノ滝(日本の滝百選) 14:05-18:00 三河安城 18:52-22:30 帰宅

宿からバスに揺られて 1,5 時間程、途中には、こんもりした山が其処此処にあるが、すべて古墳だと言われ、日本発祥の地、飛鳥文化の歴史を感じる、高松塚古墳を初めとしたキトラ古墳、石舞台、明日香山古墳など数多くの古墳群が存在する。その道を吉野山駐車場に着く。

吉野山は、春は桜、秋は紅葉と有名で、下千本、中千本、上千本とへと登って行く。七曲りの坂道をとって中千本にある金峰山寺に着く。近くに吉水神社もあり、この神社は明治に入り神仏分離が行われた際に後醍醐天皇の南朝の皇居であったことから、明治天皇が南朝発祥の地として紹介されており、世界遺産ともなっている。



道は舗装されているが尾根上にある細い道で生活道路でもあり、両脇には土産物屋、葛もちなどを売る茶店も連なっている。桜のシーズンは、人混みが予想され、通り抜けるにはさぞ大変だろうと思う。さらに舗装された坂道をのぼってゆく。段々と遠くの山々も見渡せて吉野の山の奥深さを感じる。この山には豊臣秀吉が桜の宴を開き、全国の諸大名 5 千人を招いて花見物、歌会も開かれたと言われている。

さらに登って行くと吉野水分神社につく。ここからは更に高城山を経て金峰神社のある奥千本となる。40 分程歩いて林の中の青根ヶ峰(858m)の山頂を踏む。

ここから左の尾根を大滝へと下って行く。しばらく行くと道も細くなり、急峻な道を谷へと下ってゆく。途中トビロ谷出合を清流のある、杉やヒノキが植林された木馬道を下ってゆくと、広い道路に出て、小さな指導票に導かれて音無川を渡り蜻蛉の滝に着く。

この滝、落差30m はあろうか、水流は多いが細く見事な滝で日本の滝百選にも選ばれている名瀑である。

ここから 15 分程下って行くと立派な公園施設があり、出迎えのバスは、そこに待っていた。



すべての登山行程を終えて、バスの人となる。9 月に大台ヶ原の帰りに通った川上村の中を通る。この川上村は、人口 1327 人ながら財政的にも豊かな村で吉野杉生産地として、また、秋田杉、北山杉と共に有名でもある。財政的には大滝ダムを抱え、吉野杉で有名な川上村は、天竜杉、尾鷲檜と並んで、日本の三大人工美林として知られている吉野林業の中心地。特殊な造林方法によって育てられる吉野杉は、美観、材質ともに優れていることで有名で、現在も杣人の方たちが活躍されている。

この吉野杉の植林発展に尽くした土倉庄三郎翁が有名である。





(吉野水分神社(世界遺産))

分



金峰山・蔵王堂



「吉野・台高山脈の山々を望む」



「蜻蛉の滝」 日本の滝百選

余談ながら

京都鴨川沿いに老舗の料亭[幾松]がある。この料亭は幕末動乱期に花を咲かせた桂小五郎（後の木戸孝允）の奥さん幾松が開いていたという由緒ある店でもあり、国の登録有形文化財指定の料理旅館でもある。

一昨年横浜で高校の同窓会が開かれ、参加したところ京都から出席してきた K 君に出会った、最初判らなかったが、名前を聞いて懐かしさがこみ上げ、立ち話に終わったが、後程、彼がこの料亭のご主人と聞きびっくりした。実際は、奥さんが切り盛りしていて、彼自身は獣医として開業しているとのことだった。親しい同窓の一人は新婚旅行先でこの宿に宿泊したと聞いた。

今回機会あれば連絡したいと思ったが、行程がタイトで夜になってしまうので連絡は出来なかったが機会があれば、一度訪問したいと思っていた。

しかし、先日の新聞でコロナ関連で閉店してしまったとの残念な記事が載っていた。機会を見て又、連絡を執ってみたいと思っている。

2020 年 12 月 石川 誠 記